



霧が丘

令和8年6月19日
横浜市立義務教育学校
霧が丘学園
校長 根岸 淳

異学年交流で育む心と広がる学び

副校長 杉山 典加



校庭の木々の緑がいつそう濃さを増し、夏の訪れを感じる頃となりました。新年度が始まってから、あっという間に3か月がたち、子どもたちは、保護者・地域の皆様に温かく見守られながら、安心・安全に、充実した学校生活を送っております。

霧が丘学園では、義務教育学校であることの特色をいかし、1年生から9年生までの縦割り班をつくり、異学年で交流する『きりたまタイム』という活動に取り組んでいます。「異学年の友達と協力して取り組むことの良さや楽しさを理解し、活動の見通しや自分の役割を考え、班の一員として協働しながらよりよい活動に参画しようとする態度の育成」を目標としています。

第1回きりたまタイムは、『1年生を迎える会』でした。入学式を終えたばかりの1年生を、新しく仲間として迎える会です。霧が丘学園のみんなが一堂に会し、1年生の入学を祝う様子は、大変微笑ましく、温かい雰囲気になっていました。2年生から6年生は、1年生へのお祝いの気持ちを、思考を凝らした演出で発表し、中学部は生徒会を中心に、小学部のみんなも楽しめるクイズを企画し盛り上げました。当日はもちろんですが、準備期間の活動も通して、「相手意識をもち、よりよいものをつくろう」とする資質・能力の向上に繋がる活動となりました。全児童・生徒による「虹」の合唱は、体育館いっぱいに響き渡り、霧が丘学園ならではの一体感がうまれました。

小学部内では、『ミニきりたま』といって、1・6年、2・4年、3・5年のペア学年で取り組む活動があります。5月に行われた体力テストもペア学年で取り組みました。上学年は、動きのお手本を見せながら、下学年に優しい声掛けで教えたり、回数を数えて記録をしたりと上手に関わり、下学年は、上学年を見て学び、自らの動きに生かしていました。このように、上学年と下学年がそれぞれの立場で関わり合い、ともに学び、成長できるのが異学年交流の良さだと考えます。

5月29日には、1・2年生合同で、玄海田公園への遠足がありました。私も引率で参加したのですが、ここでも異学年交流を通しての学びと成長の場面を目にすることができました。今回は2年生がリーダーとなり、班をまとめながら活動するのですが、最初は苦戦を強いられている様子。「はなれないで」「かってにいつてはだめだよ」というように、なかなかうまくいかず…悩んでいる様子。しかしこの場面が学びと成長のポイント!「どうやってあげたらうまくつたわるかな?」「きりたまタイムの時、お兄さんお姉さんはどんなふうにすすめてくれたかな?」などと思い出しながら、『きらきらハッピー・ワクワクえんそく』のめあて達成に向けて、頑張る姿が見られました。つかず離れずずっと1年生の様子を見守ってみたり、みんなが楽しめる遊びを提案してみたり、思わず私も心の中で、「リーダーがんばれー!」と声援を送っていました。そんな2年生の頑張りに、1年生も元気いっぱいこたえていました。遠足を終えて学校についた子ども達の顔は、思いっきり楽しんだからこそ程よい疲れと、やりきった達成感で、きらきらハッピーに輝いていました!

今年の遠足を経験した1年生が、来年どんなリーダー姿を見せてくれるのか今から楽しみです!



【学校の様子をホームページにてお知らせしています】

<霧が丘学園ホームページ>

URL <https://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es-jhs/kirigaoka/>



QRコード